

飼育下における淡水性カメ類の産卵調査から得られた知見

竹田正義 (姫路市立水族館)

Reproductive ecology of freshwater turtles in captivity

By Masayoshi TAKEDA

ニホンイシガメ *Mauremys japonica* (以下, イシガメ), クサガメ *Mauremys reevesii*, ミシシippアカミミガメ *Trachemys scripta elegans* (以下, アカミミガメ) の産卵生態に関する知見は乏しい。姫路市立水族館では, 1970 年代よりこれら 3 種の淡水性カメ類の繁殖を行ってきた。しかし, 個体ごとの詳しい調査はほとんど行われてこなかったため, 産卵に関する具体的な情報は数少ない。そこで, イシガメ, クサガメ, アカミミガメの産卵に関する情報を得るために, 2016 年より個体ごとのクラッチサイズ, 年間産卵数および年間産卵回数について調査している。今回は, 2016 年~ 2017 年の調査から得られた知見について報告する。

2016 年 4 月に, イシガメ 10 個体, クサガメ 10 個体, アカミミガメ 8 個体のメスの成体を選定し, 背甲に油性マーカーで番号を書いて個体を区別した。2017 年 4 月には, イシガメ 7 個体, クサガメ 5 個体, アカミミガメ 9 個体のメスの成体を新たに調査個体に加えた。調査個体全 49 個体の飼育年数は, 2017 年 4 月の時点でイシガメが 24 年~ 43 年, クサガメが 19 年~ 36 年, アカミミガメが 17 年~ 40 年であった (判明している個体のみ)。調査は, 産卵期である 5 月~ 8 月にかけて, 飼育池に併設した産卵場への上陸が可能な午前 9 時~ 午後 5 時に行った。産卵の有無は概ね 1 時間おきに目視により確認し, 産卵を確認した場合は個体番号と卵数を記録した。産卵場には 1 分間隔で写真を自動撮影する小型カメラを設置し, 調査の精度を補完した。

調査の結果, のべ産卵回数は, イシガメが 38 回, クサガメが 40 回, アカミミガメが 88 回であった。3 種のクラッチサイズ, 年間産卵数および年間産卵回数は, それぞれイシガメが 2 個~ 11 個 (平均約 6.7 個), 5 個~ 29 個 (平均約 14.2 個), 1 回~ 5 回 (平均約 2.1 回), クサガメが 1 個~ 20 個 (平均約 8.9 個), 4 個~ 51 個 (平均約 22.2 個), 1 回~ 5 回 (平均約 2.5 回), アカミミガメが 1 個~ 23 個 (平均約 9.1 個), 4 個~ 80 個 (平均約 40.2 個), 1 回~ 7 回 (平均 4.4 回) であった。これらの結果のうち, クラッチサイズではアカミミガメの 23 個, 年間産卵数ではイシガメの 29 個, クサガメの 51 個およびアカミミガメの 80 個, 年間産卵回数ではイシガメの 5 回, クサガメの 5 回およびアカミミガメの 7 回は, 当館における過去の記録の中で最も多い数となった。また, イシガメとアカミミガメでは, 飼育年数 40 年以上の個体も産卵した。今後も調査を継続し, 淡水性カメ類の産卵生態について明らかにしていきたい。